

2020年3月期第2四半期 決算説明会 質疑応答

質問1：今期は昨年の被災の影響が残っているようだが、来期以降はどう見ているのか。

回答1：現時点で見積のストックが戻っているので、来期以降の影響はないと考えている。
まずは、2017年度の業績水準に戻していきたい。

質問2：社長就任後、どういったところを一番変えたいと考えているのか

回答2：設備投資に関しては積極的に行っていきたい。

今回の木質ボード事業への投資に関しては、山口・平生事業所のパーティクルボード生産設備の稼働から40年余りが経過しているなかで、パーティクルボード事業の将来的な閉塞感を打開する必要もあり、合弁会社の設立による新工場建設を決断した。

今後も老朽化している設備の更新や自動化等に対しては積極的に投資していくが、設備投資によって新たに発生する減価償却費と得られる効果を十分に検証し、バランスの良い投資となるように進めていく。

質問3：積極的な設備投資を進めるなかで、来期以降の配当施策に変更はあるのか。

回答3：配当の考え方に関しては、現時点で変更する予定はない。

質問4：今回の木質ボード事業への投資に関して、パーティクルボードメーカー各社が増産方向にあるなかで、需給バランスが崩れることはないのか。

回答4：構造用やフローリング基材用に使用する合板の代替材料として多くの需要が見込まれていることから、既存のパーティクルボードのシェアを取りに行くというよりは、それらの需要を取り込んでいきたいと考えている。

以上